

私たちが税を納める理由

江別市立大麻東中学校 三年 星 愛果

私たちのすぐ身近にある、ないと困るものにも税金が使われている。その一つとして、信号機やガードレール、標識などの公共事業関係がある。約六年前、北海道胆振東部地震が発生した。その後地震の影響で停電となりブラックアウトになった。その際信号もつかず、事故が起きてしまっていた。税金がなかったわけではないが、もし税金がなくなってしまうたらとても危険な社会になってしまうのではないかと思っただ。また、ガードレールにも税金が使われていることに驚いた。たしかに、ガードレールには車両の損傷や人的被害を最小限に抑える役割がある。

都会の方が信号機が多いので、地域によって税の負担が大きいのではないかと疑問に思い調べてみた。すると逆に、あまり人口の多くない島根県や富山県が公共事業費の総数がトップで高く、人口一人あたりの税の負担額もとても高いことが分かった。「なんでこんなに税金を払わなければいけないんだ」と疑問、不満に思う人も出てくるかもしれない。私たちが払っている税金のゆくえを知れば、そう思う人も減るかもしれない。

税金がもしなくなった場合、消費税がなくなるのでモノも安くなり、家庭で自由に使えるお金が増えるとプラスに考える人が多いだろう。しかし、実際は信号がつかない、道路がボロボロ、公共サービスが全て有料になってしまう可能性だってある。

このように、税金がないと私たちの生活に支障をきたしてしまう。税金は年金、医療、介護、子育て支援などで日本を支えていることが分かった。

前までは消費税を払わないですめばいいのと思っていたけど、税金は私たちが安全に過ごしやすくすることに使われていることがわかった。税の作文を書くことを通して、税金と医療は深い関係にあることを知った。見えないところでもどのように税が使われているのか、社会の授業などを通してもつと知っていきたいと思った。日本を支えるため、社会の一員ということを自覚してこれからは消費税を払おうと思った。また、私が大人になったら払う税金もとても増えてくるので「日本のために」「住みやすい環境づくりのために」、そして、一番は「将来の自分が困らないために」税金をしっかり納めようと心に決めた。次の世代の人、またその次の世代の人もこの作文を書くことによって税について考えるきっかけになると思うので続けていけたらなと思う。

これからも税に感謝しながら夢に向かってがんばっていこうと決めた。